令和７年度　京都市立朱雀第三小学校

学校教育目標

自ら考え行動し　よりよい姿をめざして

なかまと共に力を高め合う子の育成

めざす学校像

- 一人一人が認められ、安心して生活できる学校
- 学習も活動も楽しく、自分が成長できる学校
- 児童も教職員も、毎日生き生きと過ごせる学校

京都で一番素敵な学校をめざして

～みんなの well-being の実現へ～

めざす教職員像

- 自ら考え、自ら行動する教職員
- しなやかさをもって同僚と協働し、よりよい学校づくりを目指す教職員
- 一生懸命に取り組む教職員

めざす子ども像

- 自ら考え、自ら行動する子ども
  【考える子】
- 多様な他者と協働し、互いの力を高め合う子ども
  【協力する子】
- 向上心をもって取り組む子ども
  【がんばる子】

＜児童の実態＞

- 素直で、指示されたことにまじめに取り組む。
- 全国学力調査・ジョイプロ等の結果が比較的よい。
- 指示されたことをきちんと取り組む。
- 自分で考えて行動することが苦手。
- 指示待ちの児童が多い。
- 向上心・探究心が低い。
- 課題解決力が低い。課題解決の経験が少ない。
- 主体性があまりない。
- 想像する力、深く考える力が低い。
- 表現力・対話力が低い。
- よいことも悪いことにも流されやすい。
- 自分から進んで考えたり、考えたことを実行したりする力が弱い。
- 体力・運動能力に課題がある。

学校経営方針

現代は VUCA の時代（先行きが不透明で将来の予測が困難な時代）と言われている。そのような時代にあっても、様々な状況に対応し、明るい未来社会を切り拓いて生きていくことが求められている。そのためには、児童自らが主体的に考え、主体的に行動する力をつけさせていくことが必要である。また、現代は多様性の時代（ダイバーシティ）であるとも言われている。自らを律しながら、多様な他者と共に学び合う力を児童につけさせていくことが必要である。そして何より、向上心をもって取り組み、よりよい自分をめざして自らの力を高めていくことは、時代にとらわれず大切なことである。それらのために、児童が主体的に取り組み、達成感・充実感を得られる学習活動や学校教育活動を展開する。そして、誰一人取り残さずに一人一人の児童を徹底的に大切にし、誰もが認められ生き生きと過ごせる学校づくりを行い、児童のウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に満たされた状態）を実現できるよう、教職員一丸となり、家庭・地域と共に、徹底して行う。併せて、教職員のウェルビーイングの実現も進めていく。

○「一人一人が認められ、安心して生活できる学校」

教職員は全ての教育活動を通して、お互いを認め合い、多様性を尊重する人権教育を徹底し、社会性を育て、いじめや暴力を絶対に許さない学校づくりを行う。それは一人一人を徹底的に大切にする京都市の教育理念を具現化した学校の姿である。また、「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」といった「生徒指導の実践上の４つの視点」を大切にし、すべての児童が自己実現でき、主体的に生きていけるよう教育活動を行う。さらに、児童や保護者、同僚、地域などからの要望や依頼にスピード感をもって応え、信頼される学校づくりを行う。

○「学習も活動も楽しく、自分が成長できる学校」

教職員は学習時間の確保、授業の質的向上に全力で取り組み、主体的・対話的で深い学びを重視した学習活動を行うとともに、達成感・充実感のある行事や取組を行い、児童が自身の成長を感じることができる学校づくりを行う。「学習」を「仕事」に置き換え、教職員自身にとっても、自分の成長を感じることができる学校をめざす。

○「児童も教職員も、毎日生き生きと過ごせる学校」

教職員は日々自己研鑽に励み、相互に連携したり支え合ったり学び合ったりする同僚性を高め、活気あふれた学校運営組織の確立をめざす。また、様々な取組について「児童」と「教職員」の両面から内容を見つめ、児童と教職員のウェルビーイングを実現できる持続可能な取組を、組織的に行っていく。

↓

学校教育目標をもとに、そのような学校づくりを進めるにあたっての

<u>めざす教職員像</u>

- **自ら考え、自ら行動する教職員**
  〈主体的に動き、学校を動かす〉
- **しなやかさをもって同僚と協働し、よりよい学校づくりを目指す教職員**
  〈心理的安全性のある職場で、同僚性を高めると共に、様々な意見をすりあわせ、よりよい取組を生み出す〉
  〈他者を尊重し、自分も大切にし、持続可能な取組を実践する〉
- **一生懸命に取り組む教職員**
  〈自己研鑽に励み、スピーディーに、丁寧に、子ども・地域・学校のために一生懸命取り組む〉

めざす子ども像

- **自ら考え、自ら行動する子ども**
  【考える子】
- **多様な他者と協働し、互いの力を高め合う子ども**
  【協力する子】
- **向上心をもって取り組む子ども**
  【がんばる子】

☆今年度の取組の重点

○ウェルビーイングな学校の実現

・現在の様々な取組の見直しや精選、工夫による、働き方改革の推進
・児童と教職員のウェルビーイングの実現を目指した、持続可能な取組の実践
【大切なことを大切に進めていく教育実践・行事や取組の整理・授業時数の見直し・会議や研修等のスリム化・部会の整理・電話対応時刻の見直し・セット時刻の厳守　等】

○主体的・対話的で深い学びを重視した授業の実践

＜育成したい資質・能力＞　**対話力　課題解決力**

- 「教師が教える授業」から、「子どもが学ぶ授業」への転換
- 学びの質を高め、学ぶ楽しさ、わかる喜びが実現できる授業展開の工夫
- 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる授業の推進
- 定められた時数で指導しきる指導力の向上
- GIGA スクール構想による、ICT 機器のさらなる活用の推進
- 基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用能力の育成
- 学力向上チームによる、児童の実態を踏まえた学力向上に向けた取組の実施
- 「言語活動」を充実させ、「対話力」を育成するための意図的・効果的な話し合い活動（ペア、グループ、集団等）の設定
- 学習課題（めあて・学習問題）に応じた「まとめ」「振り返り」を徹底した課題解決学習の実践
- 専科教員や担任教員の交換授業等による教科担任制・チーム担任制の推進
- 総合的な学習の時間の指導計画の見直し・再構築

○校内研究活動の推進

- 本校の児童の実態を踏まえた、「体育科」の校内研究活動の推進
- 2 年間の「ジャンプアップ研究推進事業」の研究成果を踏まえた運動遊びの機会や場の創出
- 研究主任・学力向上主任・教務主任・体育主任等の連携・協働による研究体制の構築

〇生徒指導の充実

・「生徒指導の実践上の 4 つの視点」(「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」）を生かした、「支える生徒指導」の推進

・児童理解部を中心とした、チームとして推進する組織的な生徒指導

〇社会に開かれた教育課程の推進

・ 育成を目指す資質・能力を明確にしたカリキュラム・マネジメントの推進

・ 地域全体で児童を育てることを踏まえた、学校・保護者・地域・学校運営協議会・PTA 活動との連携・協働

・ 地域の教育力・地域の学習材を生かした学習の展開

☆知・徳・体を育む具体的な取組（知・徳・体を一体的に育む）

１．知・確かな学力

（１）すべての児童の、基礎的・基本的な知識・技能の習得

① 日々の授業の充実

② スキルタイムの継続

③ 授業と家庭学習の連動

（２）学びの質の向上

① 一体的・連続的に行う、主体的・対話的で深い学び

② 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

③ 探究活動を通した、さんさん学習（総合的な学習の時間）の充実

④ GIGA 端末等 ICT 機器の活用による「情報活用能力」の育成

（３）自学自習の習慣化

① 日々の授業と家庭学習の連動を通した自学自習の習慣化

② 系統立てた家庭学習

③ デジタルドリルの活用などによる個別最適な学び

④ ICT 機器や自主学習ノートを活用した予習・復習等、計画的な取組の実行

⑤ やるべき学習をやらせきる指導

（４）実践的英語力の育成（英語活動・外国語活動・外国語科）

① 専科指導、ALT との協力指導等効果的な指導の構築

② 系統立てた言語活動の充実　（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）

（５）「困り」を抱える子ども一人一人に対する支援

① 個別の指導計画の活用

② ICT 機器をはじめとする支援機器・教材などの活用

③ 総合育成支援員、SC、SSW の効果的な活用

（６）ＧＩＧＡ端末等のＩＣＴ機器を活用した教育の推進

① 情報活用能力アドバイスシート等による発達段階に応じた系統性の確保

（７）発達段階に応じた切れ目のない読書活動の促進に向けた支援

① 読書活動の充実による学習の基盤となる言語能力の育成、新たな知見や価値との出合いの創出
② 読書ノートの活用　「めざせ！１００冊読書マラソン」運動
③ 学校図書館の「学習・情報センター」「読書センター」としての活用

（８）校種間連携・接続の推進
① 「生き方探究パスポート」の活用による、学習状況やキャリア形成についての見通しや振り返りの促し、幼稚園から高等学校までの系統的な指導
② よりよい人生や社会を創造していくために努力する態度や意欲を培うことができるようキャリア教育の充実
③ 架け橋プログラムの推進による保幼小の連携

（９）学力向上チームの提案を生かした、学力向上の取組
① めざす学校像・めざす教職員像・めざす子ども像の実現

２．徳・豊かな心

（１）「公共の精神」に基づく態度を育む：組織的に取り組む規範意識の育成
① 児童一人一人を徹底的に大切にする学級経営・支え合い高め合う集団づくり
② 学習規律の確立、学習集団の形成
③ 基本的生活習慣の確立、家庭との連携
④ 「学校いじめの防止等基本方針」に基づく「手遅れのない対応」「心の通った指導」の徹底
〈「いじめ」をしない、許さない、見逃さないことの徹底〉
⑤ 一人一台の端末の安全に安心して活用できるよう、情報モラル学習の系統的指導、情報セキュリティの遵守

（２）人権尊重の精神と態度の育成
① 多様性を理解する姿勢の涵養
② 「いのちの日」、人権集会の取組等、一人一人が大切にされる教育活動

（３）主体的、自発的な行動ができる児童の育成
① 学級指導、児童会活動（代表委員会、クラブ活動、委員会活動）を通しての育成
② たてわり活動の推進

（４）「生徒指導の実践上の 4 つの視点」（「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」）を生かした、「支える生徒指導」の推進

（５）道徳科の充実
①令和４年度までの研究教科であった道徳科の実践の継続

３．体・健やかな体

（１）自ら判断しての行動力、実践力の育成

（２）運動やスポーツの実践と体力の向上
① 達成感や成就感を味わい、生涯スポーツにつながる取組の実践

② 校内研究「体育科」の推進による体力・運動能力・学力の向上および体育科における well-being の実現
③ ジャンプアッププロジェクトに基づく運動の機会の創出

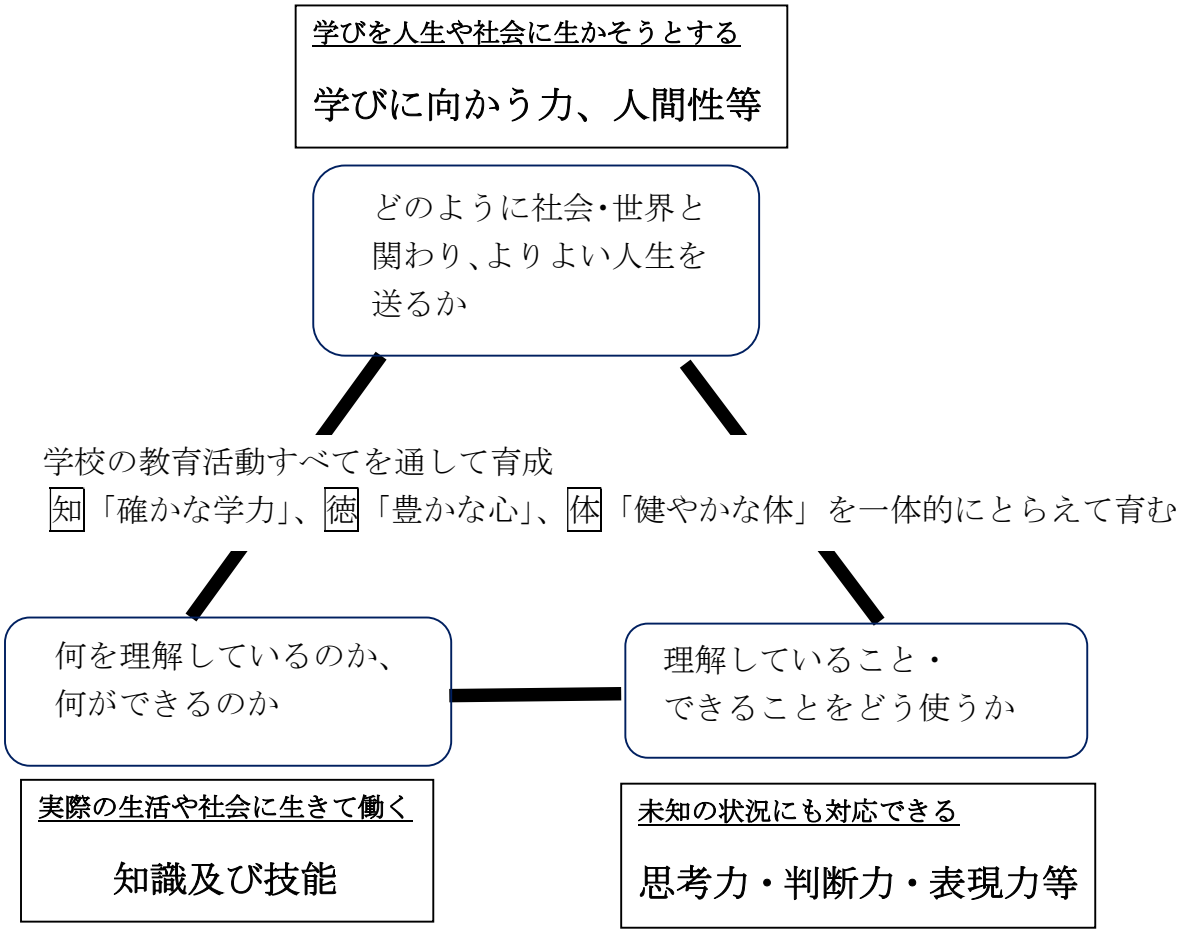
（３）保健教育の充実

① 望ましい生活習慣をつけようとする児童の育成と保護者への働きかけ
② けがや病気の原因、予防法を正しく理解し、実践できる力の育成
③ 薬物乱用防止教室の継続 教職員の指導力・子どもの自己指導力の向上「薬物乱用防止教育スタンダード」の活用
④ 家庭・地域・関係機関との連携

（４）安全教育

① 「生活安全」「交通安全」「防災安全」の意識をもつ児童の育成
② 危険を予測し、適切に行動できる力の育成
③ 危険に際して主体的に行動し、支援者となる力の育成

（５）食に関する指導の充実

① 学校における新しい生活様式を踏まえ、和やかな雰囲気の中で、みんなと一緒に食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちの育成
② 様々な経験を通じて「食」に関する知識と望ましい「食」を選択する能力を習得し、健全な食生活を実践する児童の育成

〈新しい学習指導要領で育成を目指す「資質・能力の三つの柱」〉